

# サマ村視察報告書

ピーク・エイドカトマンズ事務局  
パサン・ダワ・シェルパ

2019年9月14日

野口健と私は午前7時にカトマンズからサマ村へのヘリコプターに乗りましたが、サマへのルートで悪天候のため、ゴルカの近くに着陸し、約2時間待機しました。

天気は良くありませんでしたが、どうにかサマに着陸しました。

私たちは地元のサマの人々と野口健さんのチームメンバー、平賀さん、松本さんシェルパたちによって歓迎されました。



昼食後、アン・タルケに会うために苗木センターに行き、進捗状況を確認しました。

私たちは苗床の中で苗の進歩を見てとても幸せでした。

5年前、アン・タルケがサマに来たとき、彼はレタスやジャガイモのような野菜だけを育てていると言った。センターで、彼はニンジン、トマト、赤カブ、カリフラワー、キャベツ、キュウリの栽培をしてく



した。

これらは現在、非常に人気があり、村人はこれらの野菜を栽培しており、自分自身だけでなく周りの増え続ける観光客のために健康的な食べ物として提供しています。





9月15日

午前中、観光と収穫の季節で忙しいにもかかわらず、サマの村人の多くとサマの学校の子供たちがピーク・エイドの清掃キャンペーンに参加しました。

昼食後、野口さんは日本チームとスカイプで会話をしました。衛星インターネットサービスで日本との生の会話を少しすることができましたが、インターネットのwifi接続はとても弱く、あまりうまくいきませんでした。



午後、学校でキッチン、ダイニング、シャワー、トイレの落成式を行いました。  
校庭には子供たちがネパールと日本の旗を掲げて出迎えてくれました。







9月16日、17日

悪天候と豪雨のため、野口隊はマナスルベースキャンプに移動できませんでした。

私もヘリコプターが運休となり、数日をサマ村で過ごしました。

私たちは植林エリアを訪問しました。苗はフェンスのおかげで、放牧された家畜に食べられることがなく、順調に育っていました。

苗木を植林地に植え、2018年に3000本、2019年7月に12000本の苗木を植えました。

来年2020年にさらに15000本を植林します。

さらに来春には、15000本のチシンの新しい苗木を生産します。

現場管理者のアン・タルケ・シェルパは私のリクエストを受け入れ、2021年6月まで契約を延長してくれることとなりました。



9月18日、

ヘリコプターでカトマンズに戻りました。

9月23日、MRTFNのメンバーであるアン・ツェリン・シェルパ、ツクテン・シェルパ、ラクパ・ダマ、アン・ドカ、ドマ・ツェリン・シェルパとのミーティングし、サマ村の報告と2020年からの新たな植林プロジェクト5年間（2016年6月～2021年6月）をまとめました。